

令和2年12月24日

京都大学霊長類研究所
所長 湯本貴和 殿

一般社団法人日本霊長類学会
会長 中川尚史

「共同利用・共同研究拠点」への継続申請に関わる要望書

このたび、令和4年度から始まる国立大学第4期中期目標期間に向けて、共同利用・共同研究拠点としての継続申請をおこなうと伺いました。

日本の霊長類学は世界でも最も古い60余年の歴史を誇り、1957年に世界で最初の霊長類学の国際誌を創刊し、いち早く霊長類の生息地全般にわたって調査を実施するなど、これまで世界の霊長類学をリードしてきました。日本はこれまでも、3度にわたって国際霊長類学会のホスト国となり、また、3名の日本人研究者が国際霊長類学会の会長を歴任してきました。このように、日本の霊長類学は国際的にも重要な役割を果たしていると考えております。

そのような中、貴研究所は2017年に50周年を迎え、国内はもとより国際的な霊長類学の中核拠点として数多くの共同研究を推進してこられました。人間を含めた霊長類の基礎研究は世界の中心的研究課題であり、これを総合的に実施できる研究拠点は貴研究所を含め世界にわずかしきありません。現在も海外から数多くの若い研究者が貴研究所にて研鑽を積んでいます。わたくしどもは、これまでに貴研究所が果たしてきた国際的にみても重要な役割を高く評価しており、今後ますます貴研究所に対する世界の期待は高まっていくと考えております。ぜひこの機会に貴研究所が「共同利用・共同研究拠点」として継続認定され、国内外の研究者との共同利用・共同研究を推進・支援していただきたく、切にお願い申し上げます。